平成 30 年度 温室効果ガス排出量 算定結果報告書

1. はじめに

丹波篠山市では、地球温暖化対策の一環として、平成 28 年度に「第4次篠山市地球温暖化対策 実行計画(事務事業編)」を策定しました。この計画では、令和2年度に市が管理する施設から排出 される温室効果ガス排出量を、基準年度の平成27年度比で10.0%削減することを目標に、さまざ まな対策を推進することとしています。また、市管理施設の各種事務事業における活動量の把握と 温室効果ガス排出量削減のため、排出される温室効果ガス排出量を毎年度調査・公表することとし ています。

本報告書では、平成 30 年度に市管理施設から排出された温室効果ガスの排出量の算定結果を報告します。

2. 調査方法

調査は令和元年5月に各施設に調査票を配布、回収して実施しました。 調査対象の施設は、表 1 のとおりです。

すべての指定管理施設を含む 146 の施設を対象としました。

表 1 調査対象施設

		21 . 5.5
分類	施設数	主な施設
市役所庁舎関係施設	8	市役所本庁舎、第2庁舎、支所、公用車
保健福祉関係施設	12	診療所、地域包括支援センター、健康福祉センターほか
観光関係施設	13	篠山城大書院、チルドレンズミュージアム、こんだ薬師温泉 ぬくもりの郷、王地山公園ささやま荘ほか
生活関係施設	31	清掃センター、市営斎場、下水処理場、浄水場ほか
教育文化関係施設	26	田園交響ホール、公民館、体育館、ふれあい館、図書館ほか
駐車場	12	市営駐車場
保育園•学校関係施設	44	市立学校園、複合教育施設(小学校跡)、学校給食センター
合計	146	

調査の対象となる温室効果ガスの種類と、それに関わる活動内容の区分は、表 2 のとおりです。 なお、パーフルオロカーボン(PFC)及び六フッ化硫黄(SF₆)の活動量は、把握が困難であるため調査対象外としました。

表 2 温室効果ガスの種類と範囲

種類	特徴	排出源
二酸化炭素 (CO ₂)	最も代表的な温室効果ガスで、化石燃料 の燃焼や廃棄物の焼却等により発生し ます。	燃料の使用 電気の使用 廃プラスチックの焼却
メタン (CH ₄)	可燃性で天然ガスの主成分です。有機物が嫌気状態で腐敗、発酵するときに生じます。化石燃料の燃焼、下水処理、廃棄物の焼却等により発生します。	自動車の走行 一般廃棄物の焼却 下水の処理
一酸化二窒素 (N₂O)	亜酸化窒素とも呼ばれる常温常圧で無色の気体です。化石燃料の燃焼、窒素系肥料の使用、廃棄物の焼却等により発生します。	自動車の走行 一般廃棄物の焼却 下水の処理
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	カーエアコンや冷蔵庫の冷媒等に使用されています。	カーエアコンの使用

3. 結果

(1) 活動量

平成30年度の温室効果ガス排出に関する活動量は、表3のとおりです。

前年度は記録的な寒波と豪雪の影響により、液化石油ガス(LPG)や都市ガスの使用量が大幅に増加していましたが、今回は減少しています。また増加傾向にある一般廃棄物と廃プラスチックの焼却量が減少したのは、平成30年9月から平成31年2月まで、清掃センターの改良工事に伴い、焼却炉2炉の内1炉を停止していたためです。

表 3 活動量

				20					
I	頁目	単位	前年度 (平成29年度)	平成30年度	前年度比 増減量	前年度比 増減率	基準年度 (平成27年度)	基準年度比 増減量	基準年度比 増減率
	ガソリン	L	112,200	112,104	△ 97	-0.1%	121,478	△ 9,374	-7.7%
	軽油	L	77,242	78,169	927	1.2%	55,900	22,269	39.8%
燃料使用量	灯油	L	283,300	278,168	△ 5,132	-1.8%	274,919	3,249	1.2%
燃料使用里	関目 単型 (平成29年度) 単版 増減量 増減率 (平成27年度) 増減量 増減率 (平成27年度) 増減量 増減量 増減量 ガソリン L 112.200 112.104	-4.1%							
	液化石油ガス(LPG)	kg	59,338	55,292	△ 4,046	-6.8%	35,024	20,268	57.9%
	都市ガス	m3	342,547	203,983	△ 138,564	-40.5%	185,933	18,050	9.7%
電気	使用量	kWh	22,895,037	22,504,907	△ 390,130	-1.7%	22,399,925	104,982	0.5%
	普通•小型乗用車	km	347,971	303,176	△ 44,795	-12.9%	329,807	△ 26,631	-8.1%
	軽乗用車	km	328,877	304,591	△ 24,286	-7.4%	219,579	85,012	38.7%
ガルルカ書行野離	普通貨物車	km	85,430	40,679	△ 44,751	-52.4%	399,685	△ 359,006	-89.8%
	小型貨物車	km	104,350	154,564	50,214	48.1%	137,397	17,167	12.5%
	軽貨物車	km	238,753	239,027	274	0.1%	220,684	18,343	8.3%
	特殊用途車	km	137,752	160,146	22,394	16.3%	118,998	増減量	34.6%
	バス	km	177,551	日瀬重	-27.4%				
軽油車走行距離	普通貨物車	km	152,897	107,465	△ 45,432	-29.7%	118,998	△ 11,533	-9.7%
鞋油早处1J比極	小型貨物車	km	8486	度) 平成30年度 増減量 増減率 (平成27年度) (平成27年度	71.4%				
	押削	54.9%							
HFCカーエ	アコン使用台数	台	123	173	50	40.7%	175	Δ2	-1.1%
	勿焼却量	t	15,786	15,010	△ 776	-4.9%	15,609	△ 599	-3.8%
	チック焼却量	t	2,097	1,816	△ 281	-13.4%	2,032	△ 216	-10.6%
下水	処理量	m3	4,169,044	4,305,520	136,476	3.3%	4,051,623	253,897	6.3%
**\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	+金エコーマハナナ								

[※]数値は小数点以下四捨五入しています。

(2) 温室効果ガス排出量

平成30年度の温室効果ガス排出量は、表4のとおりです。

総排出量は 18,784,919kg-CO₂ で、前年度比で 11.9%減少、基準年度比で 13.1%減少しました。

排出量全体に占める割合が一番大きい電気による排出量は、前年度比で 13.7%、基準年度比で 19.4%減少しました。廃プラスチック焼却に伴う排出量についても、前年度比で 13.4%、基準年度比で 10.6%減少しています。これは清掃センターの改良工事に伴う焼却炉1炉停止のため、廃プラスチックの焼却量が減少したためと考えられます。また、天候等の原因で前年度使用が大幅に増えた液化石油ガス(LPG)や都市ガスによる排出量は減少しましたが、基準年度比では増加しています。



図 1 排出源構成比

表 4 温室効果ガス排出量

排出源	前年度 (平成29年度)	平成30年度	前年度比 増減量	前年度比 増減率	基準年度 (平成27年度)	基準年度に 増減量
ガソリン	260,305	260,081	△ 224	-O.1%	281,829	△ 21,7
軽油	199,286	201,676	2,390	1.2%	144,222	57,4
灯油	705,417	692,637	△ 12,780	-1.8%	684,549	8,0
 A重油	1 742 760	1 837 291	94.530	54%	1.915.951	∧ 78 <i>6</i>

					,-
	軽油	丁油 705,417 692,6 A重油 1,742,760 1,837,2 抜化石油ガス (LPG) 178,014 165,8 都市ガス 763,879 454,8 電気 11,107,886 9,583,3 発プラスチック焼却 5,797,507 5,020,8 (CH4) 92,669 95,6 素 (N2O) 477,379 470,3	201,676	2,390	1.2%
	灯油	705,417	692,637	△ 12,780	-1.8%
二酸化炭素(CO2)	A重油	1,742,760	1,837,291	94,530	5.4%
二版11灰条(602)	液化石油ガス(LPG)	178,014	165,875		-6.8%
	都市ガス	763,879	454,881	△ 308,997	-40.5%
	電気	11,107,886	9,583,377	△ 1,524,509	-13.7%
	廃プラスチック焼却	5,797,507	5,020,635	△ 776,871	-13.4%
メタン	/ (CH4)	92,669	95,629	2,960	3.2%
一酸化二	一酸化二窒素(N2O)		470,363	△ 7,016	-1.5%
ハイドロフルオ	ロカーボン(HFC)	1,759	2,474	715	40.7%
	合計	21,326,861	18,784,919	△ 2,541,941	-11.9%

※数値は小数点以下四捨五入しており、合計と合致しない場合があります。

		- <u> - 1 </u>
基準年度 (平成27年度)	基準年度比 増減量	基準年度比 増減率
281,829	△ 21,748	-7.7%
144,222	57,454	39.8%
684,549	8,088	1.2%
1,915,951	△ 78,660	-4.1%
105,073	60,802	57.9%
414,631	40,250	9.7%
11,889,709	△ 2,306,332	-19.4%
5,618,480	△ 597,845	-10.6%
90,285	5,344	5.9%
471,045	△ 682	-0.1%
2,503	△ 29	-1.2%
21,618,277	△ 2,833,358	-13.1%

(単位:kg-CO2)

施設分類別の温室効果ガス排出量は、表5のとおりです。

前年度の総排出量から 11.9%減少しました。排出量全体に占める割合が一番大きい生活関係施設では、基準年度比では 15%減少し、前年度比でも 14.1%減少しています。これは清掃センターの改良工事に伴う焼却炉の1炉停止により、焼却量が減少しているためです。また、観光関係施設についても、基準年度比で 9.1%、前年度比で 15.4%減少しました。大正ロマン館やささやま荘の都市ガス使用量の減少などが要因としてあげられますが、利用者数の減少や施設の利用形態の変更なども関係しています。

市役所庁舎関係(本庁舎、第二庁舎、5支所)では、主に本庁舎、第二庁舎の電気使用量が増加しています。前年度からの増減率はわずかとはいえ、節減を徹底する必要があります。教育文化施設、保育園・学校関係施設では、着実に削減が進んでいます。

表5 施設分類別 温室効果ガス排出量

平成29年度	平成30年度	増減量	増減率	基準年度 (平成27年度)
535,195	560,900	25,705	4.8%	646,359
462,913	420,863	△ 42,050	-9.1%	307,587
2,524,523	2,136,920	△ 387,603	-15.4%	2,350,412
14,845,237	12,753,396	△ 2,091,841	-14.1%	15,004,786
1,227,719	1,206,402	△ 21,318	-1.7%	1,373,019
12,966	10,412	△ 2,555	-19.7%	15,075
1,718,307	1,696,028	△ 22,280	-1.3%	1,921,039
21,326,860	18,784,919	△ 2,541,941	-11.9%	21,618,277
	535,195 462,913 2,524,523 14,845,237 1,227,719 12,966 1,718,307	535,195 560,900 462,913 420,863 2,524,523 2,136,920 14,845,237 12,753,396 1,227,719 1,206,402 12,966 10,412 1,718,307 1,696,028	535,195 560,900 25,705 462,913 420,863 Δ 42,050 2,524,523 2,136,920 Δ 387,603 14,845,237 12,753,396 Δ 2,091,841 1,227,719 1,206,402 Δ 21,318 12,966 10,412 Δ 2,555 1,718,307 1,696,028 Δ 22,280	535,195 560,900 25,705 4.8% 462,913 420,863 Δ 42,050 -9.1% 2,524,523 2,136,920 Δ 387,603 -15.4% 14,845,237 12,753,396 Δ 2,091,841 -14.1% 1,227,719 1,206,402 Δ 21,318 -1.7% 12,966 10,412 Δ 2,555 -19.7% 1,718,307 1,696,028 Δ 22,280 -1.3%

[※]数値は小数点以下四捨五入しており、合計と合致しない場合があります。

施設別の温室効果ガス排出量の構成比、および排出源の構成比は図2のとおりです。

施設別の排出量では、清掃センターが全体の39.4%と最も多く、ついで上水道施設が8%、こんだ薬師温泉ぬくもりの郷が7%、公共下水道施設が5.9%、あさぎり苑が4.9%とつづきます。排出量の多い上位5施設で全体の排出量の2/3を占めています。

排出源の構成比では、清掃センターの廃プラスチック焼却に伴う排出、こんだ薬師温泉ぬくもりの郷やあさぎり苑の A 重油など一部の施設で施設燃料の使用に伴う排出も目立ちますが、多くの施設で電気の使用に伴う排出が多くを占めています。

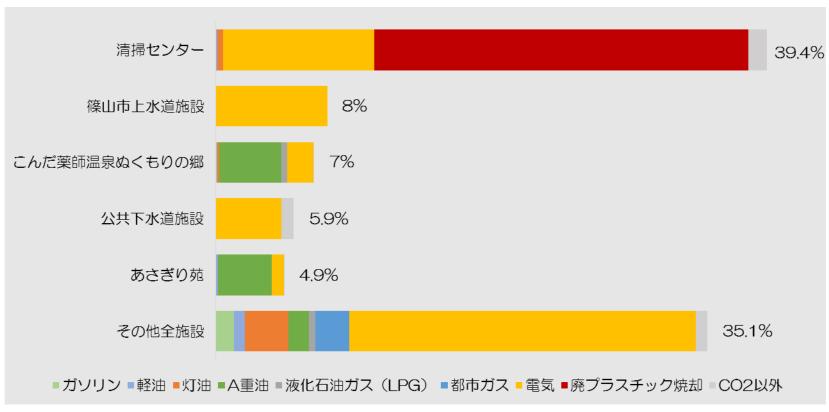


図2 排出施設構成比および排出源構成比

(3) 対策の取り組み状況

職員と施設管理者を対象に、地球温暖化対策の取り組み状況についてたずねました。

職員の取り組み状況については(表6)、「〇(日々実施している)」が80%を超えた項目は74項目中27項目で、前年度と同じでした。全体の平均値も前年度と大きな変化はなく、〇の割合が0.1%上昇しました(前年度67.8%)。ただ前年度は「〇」と「△(時々実施している)」をあわせて80%を超えた項目が56項目あったことに対し、今回は59項目でした。増加数はわずかですが、意識が低下することなく取り組めていることがわかります。

表6 職員の取り組み状況

大項目	No 質問項目	0	Δ	×
車輌の	1 2km以内であれば、可能な限り自転車を利用する	32.1%	17.3%	5 0.6%
使用 -	2 長距離出張は出来る限り公共交通機関を利用する	63.3%	26.7%	10.0%
	3 相乗りを励行し、2人以下での利用を制限する	33.0%	30.7%	36.4%
	4 アイドリングストップ等の経済運転を徹底する	72.1%	16.3%	11.6%
	5 エコドライブを心がけ、急停止、急発進はしない	97.8%	2.2%	0.0%
	6 不要な物は載せない	92.1%	5.6%	2.2%
	7 タイヤの空気圧調整等の車輌整備を定期的に行う	80.5%	17.2%	2.3%
	8 走行ルートの合理化を促す	90.9%	8.0%	1.1%
	9 燃料消費量と走行距離から燃費を計測し、取り組みの指標とする	41.0%	14.5%	44.6%
	10 低公害車、アイドリングストップ車を優先利用する	38.1%	15.9%	46.0%
	11 カーエアコンについて、こまめにオン、オフするなど適切な温度調整を心掛ける	85.9%	12.9%	1.2%
給湯設	12 ガス使用後の種火の止栓を行う	93.9%	1.2%	4.9%
備の使 - 用	13 給湯温度設定を調節する	89.3%	6.7%	4.0%
<i>,</i> .	14 給湯時期・時間はできるだけ短縮する	82.9%	8.5%	8.5%
	15 湯沸かし時には必要最低限の量を沸かす	82.1%	11.9%	6.0%
事務用 機器の -	16 退庁時に事務機器の電源をコンセントから抜く	18.8%	37.5%	43.8%
使用	17 事務機器の省エネ管理機能を活用する	75.0%	17.0%	8.0%
	18 昼休み中はパソコンを低電力モードに移行する	34.1%	35.2%	30.7%
	19 パソコンモニターの輝度を業務に支障のない範囲で下げる	42.1%	36.8%	21.1%
	20 デスクトップコンピューターでは、本体だけでなくモニターの電源も切る	62.5%	19.4%	18.1%
	21 外勤時や不要不急時にはOA機器等の電源をこまめに切る	42.3%	43.3%	14.4%
照明の 使用 -	22 屋休みの一斉消灯を行う	67.3%	18.4%	14.3%
区/13	23 可能な限り自然光を活用する	70.0%	23.3%	6.7%
	24 夜間照明の時間削減を行う	78.0%	12.2%	9.8%
	25 照明点灯箇所の削減を行う	77.3%	13.6%	9.1%
	26 朝の定時前の消灯を行う	71.1%	6.7%	22.2%
空調• 熱源機 -	27 ブラインド・カーテン等の利用により冷房効率を高める	84.2%	13.7%	2.1%
	28 夏季冷房28℃、冬季暖房20℃の適正温度を保つ	95.0%	4.0%	1.0%
	29 就業時間外の空調使用は控える	47.9%	27.1%	25.0%
	30 クールビズ・ウォームビズなど、執務中の服装は設定温度に対応したものにする	51.2%	30.2%	18.6%
	31 空調の使用時は換気扇の使用を避ける	32.5%	33.8%	33.8%
	32 空調機器の吹き出し口に物を置かない	35.3%	15.3%	4 9.4%
	33 空調使用時は扉や窓を確実に閉め、また出入りの際も速やかに開閉するなど室内への外気の侵入を防止する	71.8%	22.3%	5.8%
	34 断続的に使用する部屋(会議室等)の空調は、電源をこまめに切る	64.4%	19.5%	16.1%
ほか電 力使用 -	35 電気温水器・温水洗浄便座など温水機器の省エネモードを活用する	69.5%	16.8%	13.7%
機器の	36 機器を使用しない時には、業務に支障のない範囲で主電源を切る	57.6%	19.6%	22.8%
使用	37 エレベータの使用を抑制する	68.4%	15.8%	15.8%
	38 温水洗浄便座のフタを使用時以外は閉める	63.6%	33.3%	3.0%
_	39 温水洗浄便座は季節に合わせて設定温度を調節する	72.4%	26.5%	1.0%
	40 トイレ、湯沸室、倉庫など常時利用しない部屋の換気扇は、必要時のみ使用する	98.0%	1.0%	1.0%
	41 空調を実施しない中間期には、特別な事由がない場合、窓の開閉による自然換気を行う	88.0%	10.9%	1.1%
	42 電気ポットの使用を制限する	99.0%	1.0%	0.0%
	43 冷蔵庫の設定温度はできるだけ、夏は「中」、冬は「弱」に設定する	92.1%	7.9%	0.0%
	44 ノー残業デーには、空調、照明を定時で切る	90.5%	7.4%	2.1%

^{※ ○:}日々実施している、△:時々実施している、×:実施していない

# 58.0 日本の 19.0 日本の	大項目	No 質問項目	0	Δ	×
議の使 46 コピー級の無密を指用、コピー級数を削減する 752% 21.0% 3.8% 47 用機類の使用量を削減する 775% 16.2% 21.0% 3.8% 48 庁がLANFを活用し、紙の使用を抑制する 775% 16.2% 21.0% 3.8% 49 パソコンによる公文書の共有化を行う 71.6% 19.6% 8.8% 50 異特等の印刷は南面使用を摂削しずる 692% 77.9% 2.9% 50 異特等の印刷は南面使用を摂削しずる 692% 77.9% 2.9% 50 異特等の印刷は南面使用を摂削しずる 692% 77.9% 2.9% 50 異体等の印刷は南面使用を摂削しずる 692% 77.9% 2.9% 50 異体等の印刷は南面使用を摂削しずる 692% 77.9% 2.9% 50 異体が分別の収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 54 パソコンからプリントするとさ言は、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 25.5% 0.0% 55 スコピーを防止する定め、ロピー機使用像には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を被匿し、無駄なコピーはとらないようにする 663% 32.0% 12.7% 56 印刷物には、占紙混入車、使用インクを明むする 12.5% 6.3% 11.3% 62.0% 60 公職、辞述等の日人ル定はは有機資産として適用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 19.9% 16.0% 74.1% 60 公職、辞述等の日人ル定はは有機資産として適用する 19.7% 18.3% 62.0% 63 素がトレン原動なかは流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 63 素がトレン原数なかは流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 63 素が、パケツなどを利用したいためる 59.3% 25.4% 15.3% 62.0% 66 対域の再利用を行う 93.3% 4.8% 1.0% 66 が用の再列を行う 93.3% 4.8% 1.0% 66 が用の再列を行う 93.3% 30.0	紙類・	45 ミスコピーの有効利用を行う	95.2%	4.8%	0.0%
48 庁代人の特を活用し、紙の使用を抑制する 77.8% 16.2% 6.1% 49 パソコンによる公文書の共有化を行う 77.8% 16.2% 6.1% 49 パソコンによる公文書の共有化を行う 77.8% 16.2% 8.8% 50 資料等の印刷は画面使用を興止する 69.2% 27.9% 2.9% 2.9% 51 用紙の分別回収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る 52.7% 3.24% 2.0% 53 用紙サイズの紙一化(A4版化)により用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 54 パソコンからブリントするときは、砂すフレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 2.55% 0.0% 54 パソコンからブリントするときは、砂すフレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 2.55% 0.0% 54 パソコンからブリントするときは、砂すフレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 2.55% 0.0% 55 スコビーを防止するため、コヒー機使用後には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコビーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 59 記め替え可能製品を使用し、使い路で製品の使用は極力控える 12.5% 6.3% 81.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 62.0% 63 米洗トイレで無駄な水は流さないようにする 9.9% 16.0% 74.1% 62.0% 63 米洗トイレで無駄な水は流さないようこする 9.9% 16.0% 74.1% 63.0% 63 が洗トイレで無駄な水は流さないようこする 9.9% 16.0% 74.1% 0.0% 63 計画の再加を行う 9.34% 4.8% 10.9% 65 対面の目かというなる 9.9% 16.0% 74.1% 0.0% 7	事務用品の使	46 コピー機の機能を活用し、コピー枚数を削減する	88.7%	11.3%	0.0%
49 パソコンによる公文書の共有化を行う 71.6% 19.6% 88% 50 資料等の印刷は両面使用を原則とする 69.2% 27.9% 29.9% 51 用紙の分別回収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る 89.4% 3.8% 6.7% 32.4% 20.9% 53 用紙サイズの統一化(A4版だ)により用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 20.5% 1.9% 64.1% 31.1% 4.9% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 55.3% 20.0% 56.3% 20.0% 57.3% 20.0% 57.3% 20.0% 59.3% 20.0% 57.3% 20.0% 59.3%	用	47 用紙類の使用量を削減する	75.2%	21.0%	3.8%
50 資料等の印刷は両面使用を原列とする 59 2% 27.9% 29% 51 用紙の分別回収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る 89.4% 38% 6.7% 52 事務書類 (会議用資料、事務手帳、報告書、FAX送付状等)を簡素化する 65.7% 32.4% 20% 53 用紙サイズの紙一化(A4板化)により用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 25.5% 0.0% 55 ミスコピーを防止するため、コピー機使用後には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 59 8 印刷には、古紙混入車、使用インクを削取する 12.5% 6.3% 12.5% 5.98		48 庁内LAN等を活用し、紙の使用を抑制する	77.8%	16.2%	6.1%
51 用紙の分別回収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る 8848 38% 6.7% 52 事務書類(会議用資料、事務手続、報告書、FAX送付状等)を職業化する 65.7% 32.4% 2.0% 53 用紙サイズの終一化(A4板化)により用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコビーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 58 印刷物には、占紙混入率、使用インクを明まする 12.5% 6.3% 38.13% 60 公園、緑地等のけん定検は有機資源として活用する 12.5% 6.3% 38.13% 60 公園、緑地等のけん定検は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 62 日常的に節水を配行する 92.2% 7.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% その他の事務、購入の間が表現を行う 93.3% 3.0% 3.0% その他の事務、講像 63 対のの再利用を行う 93.3% 4.8% 1.0% その他の事務、講像 63 大ルトイレットベーバーは直配配合業100%のもの権人する 77.3% 15.5% 72.8% その時期はある 72 大ルベーバーは直配配配合業内のが成に対する 78.8% 16.3% 4.8%		49 パソコンによる公文書の共有化を行う	71.6%	19.6%	8.8%
52 事務書類 (会議用資料、事務手続、報告書、FAX送付状等) を職素化する 66 7% 32.4% 2.0% 53 用紙サイズの納ー化(A4板化)により用紙使用の合理化を図る 77.5% 16.7% 5.9% 54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 25.5% 0.0% 55 ミスコビーを防止するため、コビー機使用総には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコビーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の東面をメモ用紙等に活用する 66.0% 32.0% 1.9% 58 印刷物には、占紙混入車、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.3% 62 日常的に節水を配行する 9.32.3% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄なは流さないようにする 9.22.3% 1.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 9.93.3% 3.0% 3.0% 70 ボッカット・ボールー・バーは古紙を含みする 77.3% 15.5% 1.5% 67 再生紙を構入する 70.2% 1.5% 7.2% 1.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を開入する 77.3% 1.5% 7.2% 1.5%		50 資料等の印刷は両面使用を原則とする	69.2%	27.9%	2.9%
53 用紙サイズの続一化(A4版化)により用紙使用の合理化を図る 775% 16.7% 5.9% 54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 25.5% 0.0% 55 ミスコピーを防止するため、コピー機使用後には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする 66.0% 32.0% 19.6 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 66.0% 32.0% 12.5% 58 印刷物には、右紙混入車、使用イングを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、緑地寺のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーバーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使用 62 日常的に膨水を励行する 9.9% 16.0% 74.1% 62 日常的に膨水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の膨は、パツツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% 70 市場に表現する 93.9% 3.0% 3.0% 8 トイレットペーパーは直続配合率100%のもの着えする 77.3% 15.5% 17.2% 65 対間の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 76 再紙を開入する 92.2%		51 用紙の分別回収ボックス等を設け、用紙使用の合理化を図る	89.4%	3.8%	6.7%
54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う 74.5% 25.5% 0.0% 55 ミスコビーを防止するため、コビー機使用後には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコビーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 21.25% 60 公園、緑地等のせん定枝は青機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使 62 日常的に節水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、バケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他 0事 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 67 再生紙を購入する 90.4% 4.8% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している機入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗を見れずるのでは、日本の利用を開入する 59.6% 34.6% 5.8% 72 イベント等において、使用するのとい話で発を使用しないよう努める		52 事務書類(会議用資料、事務手続、報告書、FAX送付状等)を簡素化する	65.7%	32.4%	2.0%
55 ミスコピーを防止するため、コピー機使用後には必ずリセットボタンを押す 64.1% 31.1% 4.9% 56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする 66.0% 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 誌め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 62 日常的に筋水を励行する 9.9% 16.0% 74.1% 62 日常的に筋水を励行する 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他の事務、構 65 対局の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 76 対域を開入する 90.4% 4.8% 4.8% 86 トイレットペーパーしまが応き率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 新ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 新ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 79.8% 16.3% 4.8% 71 事務日の消耗に対しては極を利用する 73.7% 35.5% 19.7% 73 マイ素、マイ水筒を利用する 85.4% 11.8% </td <td></td> <td>53 用紙サイズの統一化(A4版化)により用紙使用の合理化を図る</td> <td>77.5%</td> <td>16.7%</td> <td>5.9%</td>		53 用紙サイズの統一化(A4版化)により用紙使用の合理化を図る	77.5%	16.7%	5.9%
56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする 66 % 32.0% 1.9% 57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60 8% 26.5% 12.7% 58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、練世等のぜん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 62 日常的に節水を配行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 59.3% 25.4% 15.3% その他の事務な場にパツツなどを利用し節水に努める 94.3% 4.8% 1.0% 75 割時の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 66 ブリンターのトナーカートリッシの回収を行う 93.3% 3.0% 3.0% 7.8 90 紙ファイル等は、再生紙を制力したものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 75.6% 2.9% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗については極力共用品として購入量の削減に努める 34.6% 5.8% 19.7% 73 マイ奈、マイ水内を入れたしまする 95.6% 11.8% 6.9% 74 事務室から出るが見から出来であるのより別を関する		54 パソコンからプリントするときは、必ずプレビューで確認してから印刷を行う	74.5%	25.5%	0.0%
57 ボスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する 60.8% 26.5% 12.7% 58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% その時間を対していていたによるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% その時間を対したいたによるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% その他の表現を開いまたが表面においまのによっていまのでは、パケツなどを利用し断水に努める 99.2% 7.8% 0.0% その他の事態は、パケツなどを利用し断水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他の事態は、パケツトペーパーは大きが高さいようがありまする。 93.9% 3.0% 3.0% インリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% インリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 4.8% 4.8% インリンターのトナールドーバーは試配合率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 72.2% 名の		55 ミスコピーを防止するため、コピー機使用後には必ずリセットボタンを押す	64.1%	31.1%	4.9%
58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する 12.5% 6.3% 81.3% 59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使用 62 日常的に節水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、バケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% 65 封筒の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 67 再生紙を購入する 77.3% 15.5% 7.2% 68 ドイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する 77.8% 16.3% 4.8% 69 紅ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 76.3% 16.3% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 35.5% 19.7% 73 マイ窓、マイ水筒を利用する 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ塞、マイ水筒を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 23.7% 33.9% 42.4% <td></td> <td>56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする</td> <td>66.0%</td> <td>32.0%</td> <td>1.9%</td>		56 ファイリング管理を徹底し、無駄なコピーはとらないようにする	66.0%	32.0%	1.9%
59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える 75.7% 22.3% 1.9% 60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使用 62 日常的に節水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他の事務、購 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 入等 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 入等 67 再生紙を購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 78.8% 16.3% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ等、マイ水崎を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 81.4% 11.8% 6.9% 75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチッの繊維を用いた製品を設定する 23.7% 33.9% 42.4%		57 ポスターやカレンダー等の裏面をメモ用紙等に活用する	60.8%	26.5%	12.7%
60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する 19.7% 18.3% 62.0% 61 タブレット化によるペーパーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使用 62 日常的に節水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 94.3% 4.8% 1.0% 65 封障の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 67 再生紙を購入する 90.4% 4.8% 4.8% 4.8% 68 トイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 78.8% 16.3% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ客、マイ水筒を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 81.4% 11.8% 6.9% 75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する 23.7% 33.9% 42.4% 76 環境に関する研修、議演会等に積極的に参加する 11.1% 52.2% 36.7%		58 印刷物には、古紙混入率、使用インクを明記する	12.5%	6.3%	81.3%
61 タブレット化によるベーバーレスを図る 9.9% 16.0% 74.1% 水の使用 62 日常的に節水を励行する 93.2% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他の事務、購 65 封筒の再利用を行う 94.3% 4.8% 1.0% 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 67 再生紙を購入する 90.4% 4.8% 4.8% 68 トイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 76.3% 4.8% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 89.5% 7.6% 2.9% 72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ薯、マイ水筒を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 81.4% 11.8% 6.9% 75 作業服は、廃ベットボトル等再生ブラスチック繊維を用いた製品を選定する 23.7% 33.9% 42.4% 76 環境に関する研修、議演会等に積極的に参加する 11.1% 52.2% 36.7%		59 詰め替え可能製品を使用し、使い捨て製品の使用は極力控える	75.7%	22.3%	1.9%
水の使用 62 日常的に節水を励行する 932% 6.8% 0.0% 63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、パケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% その他の事務、購合 94.3% 4.8% 1.0% 65 封筒の再利用を行う 93.9% 3.0% 3.0% 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 67 再生紙を購入する 90.4% 4.8% 4.8% 68 トイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 78.8% 16.3% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 89.5% 7.6% 2.9% 72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ客、マイ水筒を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 81.4% 11.8% 6.9% 75 作業服は、廃ベットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する 23.7% 33.9% 42.4% 76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する 11.1% 52.2% 36.7%		60 公園、緑地等のせん定枝は有機資源として活用する	19.7%	18.3%	62.0%
日		61 タブレット化によるペーパーレスを図る	9.9%	16.0%	74.1%
63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする 92.2% 7.8% 0.0% 64 洗車の際は、バケツなどを利用し節水に努める 59.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 15.3% 25.4% 10.0% 35.5% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 30.0% 48.8%	水の使	62 日常的に節水を励行する	93.2%	6.8%	0.0%
その他 の事	用	63 水洗トイレで無駄な水は流さないようにする	92.2%	7.8%	0.0%
の事		64 洗車の際は、バケツなどを利用し節水に努める	59.3%	25.4%	15.3%
務、購 66 ブリンターのトナーカートリッジの回収を行う 93.9% 3.0% 3.0% 入等 67 再生紙を購入する 90.4% 4.8% 4.8% 68 トイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する 77.3% 15.5% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 78.8% 16.3% 4.8% 70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する 59.6% 34.6% 5.8% 71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める 89.5% 7.6% 2.9% 72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める 44.7% 35.5% 19.7% 73 マイ塞、マイ水筒を利用する 85.4% 12.6% 1.9% 74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る 81.4% 11.8% 6.9% 75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する 23.7% 33.9% 42.4% 76 環境に関する研修、議演会等に積極的に参加する 11.1% 52.2% 36.7%	その他	65 封筒の再利用を行う	94.3%	4.8%	1.0%
67 再生紙を購入する 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 4.8% 6.8% 16.3% 7.2% 69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する 78.8% 16.3% 4.8% 4.8% 7.6% 5.8% 7.6% 5.8% 5.8% 7.6% 2.9% 7.6% 2.2% 3.0% 7.6% 2.2% 3.0% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7.6% 2.9% 7	務、購	66 プリンターのトナーカートリッジの回収を行う	93.9%	3.0%	3.0%
69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する78.8%16.3%4.8%70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する59.6%34.6%5.8%71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める89.5%7.6%2.9%72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める44.7%35.5%19.7%73 マイ箸、マイ水筒を利用する85.4%12.6%1.9%74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%	入等	67 再生紙を購入する	90.4%	4.8%	4.8%
70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する59.6%34.6%5.8%71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める89.5%7.6%2.9%72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める44.7%35.5%19.7%73 マイ箸、マイ水筒を利用する85.4%12.6%1.9%74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		68 トイレットペーパーは古紙配合率100%のものを購入する	77.3%	15.5%	7.2%
71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める89.5%7.6%2.9%72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める44.7%35.5%19.7%73 マイ箸、マイ水筒を利用する85.4%12.6%1.9%74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		69 紙ファイル等は、再生紙を利用したものを購入する	78.8%	16.3%	4.8%
72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める44.7%35.5%19.7%73 マイ箸、マイ水筒を利用する85.4%12.6%1.9%74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、議演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		70 エコマーク等の環境に配慮している製品を購入する	59.6%	34.6%	5.8%
73 マイ箸、マイ水筒を利用する85.4%12.6%1.9%74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		71 事務用品や消耗品については極力共用品として購入量の削減に努める	89.5%	7.6%	2.9%
74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る81.4%11.8%6.9%75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		72 イベント等において、使い捨て容器を使用しないよう努める	44.7%	35.5%	19.7%
75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する23.7%33.9%42.4%76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する11.1%52.2%36.7%		73 マイ箸、マイ水筒を利用する	85.4%	12.6%	1.9%
76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する 11.1% 52.2% 36.7%		74 事務室から出る紙類の分別を徹底し、資源とすることでごみの減量を図る	81.4%	11.8%	6.9%
		75 作業服は、廃ペットボトル等再生プラスチック繊維を用いた製品を選定する	23.7%	33.9%	42.4%
平均 67.9% 18.0% 14.0%		76 環境に関する研修、講演会等に積極的に参加する	11.1%	52.2%	36.7%
		平均	67.9%	18.0%	14.0%

^{※ ○:}日々実施している、△:時々実施している、×:実施していない

施設管理者の取り組み状況(表7)については、「日々実施している」が80%を超えた項目は34項目中3項目で、前年度と同じでした。また、「時々実施している」を含め80%を超えた項目は9項目で、前年度の10項目より減少しました。

全体の平均については、「○:日々実施している」が前年度より1%上昇、「△:時々実施している」と合わせても前年度をわずかに上回り、取り組みが浸透していることがうかがえます。

表7 施設管理者の取り組み状況

大項目	No	0	Δ	×
車輌の	1 公用車の台数削減を検討する	30.4%	23.9%	45.7%
使用	2 庁用車の更新にあたっては、環境に配慮した低公害車を選定する	61.9%	11.9%	26.2%
ほか電	3 ボイラ等の適正運転管理を行う	81.3%	6.3%	12.5%
力使用	4 サービス水準を損ねない範囲で、時間帯別エレベータ稼働台数を最少とする	52.9%	11.8%	35.3%
機器の 使用	5 電気使用のピークカット及び電気使用量の削減を図るため、デマンド監視装置等を設置する	34.4%	0.0%	65.6%
区内	6 デマンド警報発令時の対処方法を事前に決める	38.5%	3.8%	57.7%
照明の	7 照明スイッチに点灯場所を明示する	51.1%	21.3%	27.7%
使用	8 照明器具の清掃、適正な時期での交換を実施する	63.0%	20.0%	17.0%
	9 屋外照明等は、安全の確保に支障のない範囲で消灯するなど点灯縮減を図る	79.1%	11.0%	9.9%
	10 洗面所やトイレには人感センサ付き照明やスイッチを設置する	17.2%	3.4%	79.3%
	11 白熱電球は、交換時期に電球型蛍光灯やLED電球等照明効率の高いランプへ切り替える	38.8%	32.9%	28.2%
	12 トイレ、廊下、階段等について、不用な箇所は間引き消灯を実施するとともに、消灯管理を徹底する	73.9%	12.0%	14.1%
	13 照明の消灯状況の点検を実施する	80.4%	10.3%	9.3%
空調•	14 室外機を負担がかからない設置場所に移設する	52.9%	10.3%	36.8%
熱源機	15 冷房期間中、すだれなどを利用し空調室外機への日光の直射を防止する	31.6%	13.9%	54.4%
の使用	16 空調機器の運用マニュアルを作成・統一する	23.7%	14.5%	61.8%
	17 空調の使用時は、空調機器のフィルター清掃を月1回程度行う	18.4%	48.3%	33.3%
の使用	18 室内温度や外気温を測定し、空調使用や温度設定の参考とする	64.0%	17.4%	18.6%
	19 閉館時間が定まっている施設では、閉館30分前に空調を止める	20.0%	40.0%	40.0%
	20 緑のカーテン、遮蔽シート等で日射・遮蔽を行う	33.3%	24.7%	42.0%
	21 夜間の巡視により空調・換気・照明などの消し忘れを防止する	79.1%	0.0%	20.9%
	22 中間期には、出来る限り自動ドアを開放しておく	62.8%	11.6%	25.6%
水の使	23 水道水圧の調節を行う	44.2%	15.8%	40.0%
用	24 トイレ用水の水量調節を行う	41.9%	12.9%	45.2%
	25 水漏れ点検を徹底する	70.4%	25.5%	4.1%
	26 すべての水道に節水コマを取り付ける	11.5%	9.2%	79.3%
	27 洗面所やトイレの水栓を自動水栓に切り替える	24.1%	11.5%	64.4%
	28 施設利用者に対して節水を呼び掛ける	52.3%	31.8%	15.9%
その他	29 各職場での優れた取り組みを公表し、庁舎全体で実践する	20.0%	18.5%	61.5%
の事 務、購	30 環境配慮行動に関するアイデアを募集、実践する	10.9%	12.5%	76.6%
務、賻 入等	31 毎月のエネルギー使用量を記入するシートを作成するなど、毎月のエネルギー使用量の「見える化」を行う	21.7%	13.0%	65.2%
\\ \ \\	32 環境配慮に関する情報を職員に提供、共有する	21.7%	3 9.1%	3 9.1%
	33 地球温暖化対策実行計画の推進状況を定期的に公表する	7.5%	9.0%	83.6%
その他	34 公共施設の緑地の適正管理を行う	84.3%	13.3%	2.4%
	平均	44.1%	16.5%	39.4%

※ ○:日々実施している、△:時々実施している、×:実施していない

4. まとめ

「第4次篠山市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」では、目標年度である令和2年度の温室効果ガス排出量(以下排出量)を、基準年度の平成27年度比で10.0%削減することを目標としています。

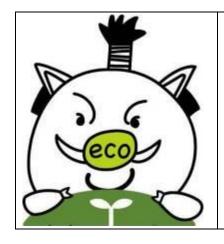
平成30年度の総排出量は、基準年度の総排出量と比較して13.1%減少しており、前年度比でも11.9%減少しました。目標達成には排出量を増やさないよう着実に取り組んでいくことが重要です。ただし、今回の調査で排出量が減少したのは、清掃センターの改良工事に伴い焼却炉で受け入れられる廃プラスチックの量が減ったことが大きな要因です。工事が終了すれば廃プラスチック焼却量の増加が見込まれるため、これまで以上にごみの減量化や正しい分別によって、廃プラスチックの焼却量を減らすことや、排出量の大きなウエイトを占める電気の使用を減らすよう節電に取り組むことが必要です。

目標達成に向け、ごみの減量化や節電、設備の運用改善や機器のメンテナンス、省エネ機器への更新など施設の適正利用に取り組んでいきます。

また、職員の節電や燃料使用の抑制など、日常業務におけるソフト的な取り組みを引き続き徹底していきます。



図3 排出量の推移



平成 30 年度 温室効果ガス排出量算定結果報告書

丹波篠山市農都創造部農都環境課

〒669-2397 丹波篠山市北新町 41

TEL:079-552-1111(代表)

E-mail: kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp